

2019年2月17日(日)施行

第193回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

1. 製造用機械の段取りは、直接労務費
2. 月割経費のため、間接経費
3. 主要材料費のため、直接材料費
4. 補助材料費のため、間接材料費
5. 間接作業時間になるため、間接労務費

第2問

1. 内金として現金を受け取った。前受金で処理する。
2. 材料消費額を仕掛品勘定に振り替える。
3. 賃金消費額および製造間接費を仕掛品勘定に振り替える。
4. 製造間接費を仕掛品勘定に振り替える。
5. 製品が完成したため、仕掛品を製品に振り替える。
6. 売上計上と同時に、製造原価を売上原価に振り替える。

第3問

月末仕掛品原価と完成品総合原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は平均法。したがって計算表は下記のようなになる。

平均法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数量	直接材料費	換算量	加工費	合計
月初仕掛品	160kg	50,250	96kg	55,270	105,520
当月投入	5,200kg	1,667,630	5,138kg	2,915,025	4,582,655
合計	5,360kg	1,717,880	5,234kg	2,970,295	4,688,175
月末仕掛品	210kg	① 67,305	84kg	② 47,670	114,975
完成品	5,150kg	1,650,575	5,150kg	2,922,625	4,573,200

$$\textcircled{1} \quad 1,717,880 \times 210\text{kg} \div 5,360\text{kg} = 67,305$$

$$\textcircled{2} \quad 2,970,295 \times 84\text{kg} \div 5,234\text{kg} = 47,670$$

第4問

- ① 材料 250,200 消費し、仕掛品に振り替える。
- ② 賃金 1,066,000 消費し、製造間接費に振り替える。
- ③ 製造間接費 1,961,960 を仕掛品に配賦。
- ④ 仕掛品 3,684,860 が完成し、製品に振り替える。
- ⑤ 原価 3,730,600 の製品を販売している。

第5問

(1) 原価計算表の作成

#23

直接材料費＝	5,000	材料元帳払出欄より 9/5 に出庫している。
直接労務費＝	329,700	直接労務費の合計 1,208,900 ÷ 直接作業時間合計 1,540 時間＝賃率 785 賃率 785 × 420 時間＝329,700
製造間接費＝	264,600	製造間接費実際発生額 970,200 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。 $970,200 \times 420 \div 1,540 = 264,600$

#24

直接材料費＝	60,000	材料元帳払出欄より 9/4 に出庫している。
直接労務費＝	510,250	賃率 785 × 650 時間＝510,250
製造間接費＝	409,500	製造間接費実際発生額 970,200 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。 $970,200 \times 650 \div 1,540 = 409,500$

#25

直接材料費＝	76,560	材料元帳払出欄より 9/15 に出庫している。
直接労務費＝	368,950	賃率 785 × 470 時間＝368,950
製造間接費＝	296,100	製造間接費実際発生額 970,200 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。 $970,200 \times 470 \div 1,540 = 296,100$

(2) 9月30日に棚卸減耗費を間接経費として処理したときの仕訳

材料の棚卸減耗費は間接経費であるため、材料元帳より 2,560 (5×512) の材料を減少させるとともに製造間接費を計上します。